

今あらためて、発会時の初心を振り返る積もりで、HEARTの会の発足準備委員会の談義からまとめた、『どんな会にしたいか』という会報創刊号の記事を、まず再掲することをお許しください。

『どんな会にしたいか』（1995-3-10 創刊号）

- ◎参加型・相互啓発型の交流を軸として、環境配慮の知恵をまとめ、行動にも繋げられるひと味違った会にしたい。 ＊盲点や曲解の指摘、重要な見解の提言にも貞献したい。 ＊会を大きくし、十分な活動力を早く備えたい。 ＊しかし、初心忘るべからずが重要だ。
- ◎浪費、大量消費、使い捨て社会、景気優先・環境軽視、人口爆発と飢餓、自然を尊ぶ心の低下、……早晚、人類および多くの生物の生息環境が危ないという。 ＊しかし生活に密着した場での危機意識は低い。 ＊我々自身、自主的になっていない。受け身なのだ。
- ◎生き生きと生きるために、感性を活性化する人間環境の創造も大切な課題だ。
- ◎現実的問題では、クールな目で功罪両面の本質を認識し評価をすることが重要だ。 ＊問題が起きると、全面的に物質に罪をさせる。人間の自己無規制や使い方が悪かったのに。
- ◎具体的な事業活動では、主軸に全員対象のセミナーや学習会でグローバルな問題に対する理解と認識を計りつつ、意見交換や懇親会など、出会いの時と場をつくりたい。
- ◎さらに、会員の声や意思疎通を大事にする上では会報は是非必要だ。 ＊経済的でやや機動力のある手作りも出来る体勢を整備したい。
- ◎また、上記のセミナーなどの他に、各層多様な会員間の視点で、本研究会の目的達成に役に立つ、問題点を絞り込んだ主体性のある小研究会を逐次発足させたい。
- ◎会員の支援を得て基盤を確立し、会員各位の知恵・経験・意欲を結集して人間環境活性化への貢献や提言の出来る会にしていきたい。

『定着化しつつある活動、会員への感謝』

この発会から3年半、“初心の思い”が、

- ①会報による意思疎通
- ②セミナーでのグローバルで新鮮な視点の習得
- ③ワーキング・グループによる共同啓発研究活動
- ④分科集会での内容の濃い‘時のテーマ’の学習と各自の主張の構築・開陳、相互啓発
- ⑤紹介講演会での開発者本人直接の説明交流
- ⑥見学会での得難い先駆的事項の見聞の拡大
- ⑦同好会での共有する楽しみと感性等活性化
- ⑧懇親会での出会いと活性化につながる親交などとして実現、それぞれ継続的軌道にも乗って参りました。

これらは、会員の皆様が本会の趣旨に賛同して下さって、必ずしも事務处理的にも整っていない、手作り作業的な会の運営にも、それなりのご理解とご評価の上、前向きな参加やご支援を賜っているお陰だと、心から感謝申し上げます。

『実現したいつぎの課題』

- ◎定着しつつある上記諸活動を、形だけが整うマンネリ化を戒めて、参加される会員に一層魅力のあるものとなる様な充実を計りたい。
- ◎特に、この間に会員が参加表明され、共感を呼んだ有用な視点、主張、感性等が、さらに理解を深めて活かされる様な積み重ねのある機会づくりを大切にしていきたい。
- ◎会員の人間環境活性化に沿った個人としての活動も、本会の持つ場を利用して紹介するなどその応援に努めたい。
- ◎本会の歩みの中で集約されてくる重要な意見を、具体的提言を伴う形で発信していきたい。これに関連して、情報化社会での有効な手法の活用も取り入れられる様にしていきたい。
- ◎会員間の協力を得て、具体的な社会貞献につながる本会に相応しい事業を成立実現していきたい。

敢て、対象をあげれば、啓蒙につながる事業、再生等資源保持につながる事業などに知恵を集められたらと考える。

- ◎上記諸事項実現のために、一年に一、二回、意見を出し合う会員懇談会を開きたい。

◎なお、本会が、内容を充実しつつ、新鮮な継続を果たすために、会員の理解と協力のもと、未来への人的・経済的な充足を心掛けねばならない。

